

2024年度業務実績及び第3期中期目標期間(2019年度～2024年度)における業務実績に関する報告書 修正一覧

頁	計画番号	項目	修正前	修正後
13	1-2	中期計画	設置計画に基づき、定めたカリキュラムを適切に運用する。	設置計画に基づき、定めたカリキュラムを適切に運用する。 (※太字を解除)
2	5	特記事項	2019年度末に、全世界を襲った新型コロナウイルス感染症拡大により海外への渡航制限が行われ、国際交流が厳しい状況下に置かれたが、オンラインなども活用し、学内で実施する国際交流プログラムを充実させるとともに、新型コロナウイルス感染症の流行状況に注意をはらいながら海外協定校への学生派遣や学生への支援を継続してきた。また、協定校の模索や交流再開に向けた準備も継続してきた結果、新たに6大学との交流協定を締結することができた。なお、円安などの経済的要因により、派遣留学や外国研修に参加する学生数は鈍化しているが、魅力ある海外の大学との協定締結を推進することで、本学のグローバル化を推進している。	派遣に向けた支援や交流協定校の開拓、学内で実施する国際交流プログラムの拡大など、外国・異文化に触れる取り組みを推進してきた。 しかし、海外研修の経験を行うことができた人数については、2019年度には120人であったが、その後新型コロナウイルス感染症拡大により国際交流が厳しい状況におかれたことから、人数は減少した。コロナ期のオンラインを活用したプログラムの提供や渡航制限緩和後の派遣に向けた様々な取り組みを行ってきたが、円安の影響もあり、2024年度に海外研修の経験を行った学生は65名にとどまり、現在も回復できていない。
20		総括	外国語の各種検定試験については、中期計画期間中、毎年度延べ50人以上の学生が単位認定され、目標を達することができた。また、外国語副専攻(英語・中国語・朝鮮語)のあり方について教学マネジメント会議で検討し、外国語副専攻の制度を廃止した。	外国語の各種検定試験については、中期計画期間中、毎年度延べ50人以上の学生が単位認定され、目標を達することができた。また、外国語副専攻(英語・中国語・朝鮮語)のあり方について教学マネジメント会議で検討し、外国語副専攻の制度を廃止した。
7	6-1	特記事項	・新任教員研修会を月1回(全11回)開催した。 ・6月6日に前富山大学保健管理センター准教授によるFD・SD研修「障害のある学生に対する修学支援～合理的配慮の考え方と提供～」を実施し、役員含む教職員あわせて77人が参加した。 ・10月10日に山口大学知的財産センター長によるFD研修「大学の教職員として知っておきたい著作権」を実施し、教職員あわせて49人が参加した。	・新任教員研修会を月1回(全11回)開催した。 ・6月6日に前富山大学保健管理センター准教授によるFD・SD研修「障害のある学生に対する修学支援～合理的配慮の考え方と提供～」を実施し、役員含む教職員あわせて77人が参加した。 ・10月10日に山口大学知的財産センター長によるFD研修「大学の教職員として知っておきたい著作権」を実施し、教職員あわせて49人が参加した。
21		2024	・1月21日に京都大学学生総合支援機構准教授による研修「障害のある学生に対する修学支援～発達障害のある学生への対応をふまえて～」を実施し、教職員あわせて45人が参加した。	・1月21日に京都大学学生総合支援機構准教授による研修「障害のある学生に対する修学支援～発達障害のある学生への対応をふまえて～」を実施し、教職員あわせて45人が参加した。 ・発達障害の可能性のある学生や合理的配慮を必要とする学生が年々増加しており、FD・SD研修を通じて学んだ対応の仕方を、授業や指導に各々が取り入れた。その結果、ハラスメント事案が発生しなかった。
33	15	総括	18歳人口の減少が深刻ななか、志願者獲得に尽力したが、目標値の達成には至らなかった。 新型コロナウイルス感染症を契機に志願傾向が大きく変化した感があるが、積極的に周知を行い回復に努めた。 ※表省略	18歳人口の減少が深刻ななか、志願者獲得に尽力したが、目標値の達成には至らなかった。 新型コロナウイルス感染症を契機に志願傾向が大きく変化した感があるが、積極的に周知を行い回復に努めた。 また、下関市内からの入学者も、2019年度には60人であったが、(2024年度中に入学試験を受験した)2025年度は81人と増加した。 ※表省略

3	20	特記事項	【最短在学期間（修業年限）卒業率】	【最短在学期間（修業年限）卒業率】																																																																																			
		総括	<table border="1"> <tr><td>入学年度</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td></tr> <tr><td>卒業年度</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><td>卒業率(%)</td><td>91.2</td><td>91.2</td><td>90.7</td><td>93.0</td><td>88.5</td><td>90.0</td></tr> </table>	入学年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	卒業年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	卒業率(%)	91.2	91.2	90.7	93.0	88.5	90.0	<table border="1"> <tr><td>入学年度</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td></tr> <tr><td>卒業年度</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><td>卒業率(%)</td><td>91.2</td><td>91.2</td><td>90.7</td><td>93.0</td><td>88.5</td><td>90.5</td></tr> </table>	入学年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	卒業年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	卒業率(%)	91.2	91.2	90.7	93.0	88.5	90.5																																									
入学年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021																																																																																	
卒業年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																																																																	
卒業率(%)	91.2	91.2	90.7	93.0	88.5	90.0																																																																																	
入学年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021																																																																																	
卒業年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																																																																	
卒業率(%)	91.2	91.2	90.7	93.0	88.5	90.5																																																																																	
8	24-1	特記事項	<p>新入生を対象に「UPI（精神的健康度調査）」を実施し、「自覚症状（精神身体的訴え、抑うつ傾向、新人不安、強迫傾向、被害関係念慮）」と「心の健康（陽性感情）」度を測定した。「相談したい」もしくは「迷っている」と回答した学生21人に面談を働きかけ、そのうち4人が相談に来室した。また、要注意学生59人に相談を呼びかけ、そのうち32人と面談を実施。大学生活や学修に関する不安等を聞き取り、情報提供等のサポートを行った。そのほか、教務課や学生支援課から照会のあった学生や、自ら相談に来室した学生に、学内関係者と連携して学生理解や具体的な支援の提供を行った。また、学生の状況に応じ、かつ、本人の意向を確認しながら、精神科や心療内科、専門病院などヘリファーした。相談支援センターへの相談は、延べ940件であり、そのうち他部署との連携は86件、外部専門機関との連携は16件であった。それ以外においても、ケース検討会議を随時行いながら、必要に応じて家族との連絡・連携、学内関係者とも情報共有を行い、学生への適切な支援を提供した。</p>	<p>新入生を対象に「UPI（精神的健康度調査）」を実施し、「自覚症状（精神身体的訴え、抑うつ傾向、新人不安、強迫傾向、被害関係念慮）」と「心の健康（陽性感情）」度を測定した。「相談したい」もしくは「迷っている」と回答した学生21人に面談を働きかけ、そのうち4人が相談に来室した。また、要注意学生59人に相談を呼びかけ、そのうち32人と面談を実施。大学生活や学修に関する不安等を聞き取り、情報提供等のサポートを行った。そのほか、教務課や学生支援課から照会のあった学生や、自ら相談に来室した学生に、学内関係者と連携して学生理解や具体的な支援の提供を行った。また、学生の状況に応じ、かつ、本人の意向を確認しながら、精神科や心療内科、専門病院などヘリファーした。相談支援センターへの相談は、延べ940件であり、そのうち他部署との連携は86件、外部専門機関との連携は16件であった。それ以外においても、ケース検討会議を随時行いながら、必要に応じて家族との連絡・連携、学内関係者とも情報共有を行い、学生への適切な支援を提供した。</p>																																																																																			
46		2024																																																																																					
3	28	特記事項	【科研費申請の状況】	【科研費申請の状況】																																																																																			
53		総括	<table border="1"> <tr><td>年度</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><td>①申請者数</td><td>35人</td><td>51人</td><td>44人</td><td>43人</td><td>60人</td><td>78人</td></tr> <tr><td>②対象教員数</td><td>52人</td><td>56人</td><td>52人</td><td>54人</td><td>64人</td><td>82人</td></tr> <tr><td>申請率(①/②)</td><td>67%</td><td>91%</td><td>85%</td><td>80%</td><td>94%</td><td>95%</td></tr> </table>	年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	①申請者数	35人	51人	44人	43人	60人	78人	②対象教員数	52人	56人	52人	54人	64人	82人	申請率(①/②)	67%	91%	85%	80%	94%	95%	<table border="1"> <tr><td>申請年度</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td></tr> <tr><td>①申請者数</td><td>35人</td><td>51人</td><td>44人</td><td>43人</td><td>60人</td><td>78人</td></tr> <tr><td>②対象教員数</td><td>52人</td><td>56人</td><td>52人</td><td>54人</td><td>64人</td><td>82人</td></tr> <tr><td>③新規申請者数</td><td>27人</td><td>40人</td><td>36人</td><td>32人</td><td>51人</td><td>64人</td></tr> <tr><td>申請率(①/②)</td><td>67%</td><td>91%</td><td>85%</td><td>80%</td><td>94%</td><td>95%</td></tr> <tr><td>採択年度</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td></tr> <tr><td>④代表分(新規採択)</td><td>3人</td><td>4人</td><td>4人</td><td>5人</td><td>7人</td><td>5人</td></tr> <tr><td>採択率(④/③)</td><td>11%</td><td>10%</td><td>11%</td><td>16%</td><td>14%</td><td>8%</td></tr> </table>	申請年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	①申請者数	35人	51人	44人	43人	60人	78人	②対象教員数	52人	56人	52人	54人	64人	82人	③新規申請者数	27人	40人	36人	32人	51人	64人	申請率(①/②)	67%	91%	85%	80%	94%	95%	採択年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	④代表分(新規採択)	3人	4人	4人	5人	7人	5人	採択率(④/③)	11%	10%	11%	16%	14%
年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																																																																	
①申請者数	35人	51人	44人	43人	60人	78人																																																																																	
②対象教員数	52人	56人	52人	54人	64人	82人																																																																																	
申請率(①/②)	67%	91%	85%	80%	94%	95%																																																																																	
申請年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024																																																																																	
①申請者数	35人	51人	44人	43人	60人	78人																																																																																	
②対象教員数	52人	56人	52人	54人	64人	82人																																																																																	
③新規申請者数	27人	40人	36人	32人	51人	64人																																																																																	
申請率(①/②)	67%	91%	85%	80%	94%	95%																																																																																	
採択年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025																																																																																	
④代表分(新規採択)	3人	4人	4人	5人	7人	5人																																																																																	
採択率(④/③)	11%	10%	11%	16%	14%	8%																																																																																	
3	33	特記事項	<p>鯨油高度化利用について、下関市・市内企業・各種団体等と協議会を立ち上げ、また、その他地域課題に関する情報収集を進めるとともに、株式会社山口フィナンシャルグループ等や北九州市立大学との共同研究を実施した。</p>	<p>鯨油高度化利用について、下関市・市内企業・各種団体等と協議会を立ち上げ、また、その他地域課題に関する情報収集を進めるとともに、株式会社山口フィナンシャルグループ等や北九州市立大学との共同研究を実施するなど、2019年度及びコロナ禍で評価対象外となった2021年度以外は毎年度1件以上の受託研究・共同研究に取り組むことができた。</p>																																																																																			
57		総括																																																																																					
9	45-3	特記事項	<p>韓国の協定校と連携したE.L.S.Oに関する共同研究を継続実施している。また、海外大学との共同研究を推進するため、新たに韓国のハンシン大学校と大学院間の交流協定締結を行い、下関市のグローバル化に資する基盤強化を図った。</p>	<p>韓国の協定校と連携したE.L.S.Oに関する共同研究を継続実施している。また、海外大学との共同研究を推進するため、新たに韓国のハンシン大学校と大学院間の交流協定締結を行い、下関市のグローバル化に資する基盤強化を図った。</p>																																																																																			
70		2024																																																																																					

74	51-1	年度計画	教員評価制度の充実に資するため、教育への貢献度を多面的に、また指標化して評価する制度を検討し整備する。	削除																		
75	54-1	年度計画	業務の属人化の解消を図り、有給休暇を取得しやすい就業環境の整備に努める。	削除																		
76	55-1	年度計画	2021年度に策定した女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画に基づき、多様な人材が本学に登用され活躍の場を得られるよう、教員公募要領の一部見直しを行う。	削除																		
88	63-2	2024	新規導入した電子書籍「Maruzen eBook Library」の利用促進を図るため、学生及び教職員向けの講習会を実施し、さらに選書に役立てるための試読サービスを6か月間（7月～12月）提供した。また、ブックハンティングや専門演習Ⅱを通じて教員及び職員が選書に携わり、学生による選書を促進した。 看護学部の開設に伴い、紙の書籍3,369冊（和書3,308冊、洋書61冊）及び電子書籍697冊（和書685冊、洋書12冊）を新規導入した。また、開設2年目を迎えるデータサイエンス学部では、紙の書籍105冊（和書100冊、洋書5冊）及び電子書籍48冊（和書45冊、洋書3冊）を導入し、蔵書の充実に努めた。あわせて、山口県に関連した郷土資料の収集に努めた。さらに、引用文献データベース「Scopus」を新規導入し、電子リソースの拡充にも取り組むとともに、 現在契約中の電子リソースの利用方法について検討し、2025年度より学外からの利用を可能とした。	新規導入した電子書籍「Maruzen eBook Library」の利用促進を図るため、学生及び教職員向けの講習会を実施し、さらに選書に役立てるための試読サービスを6か月間（7月～12月）提供した。また、ブックハンティングや専門演習Ⅱを通じて教員及び職員が選書に携わり、学生による選書を促進した。 看護学部の開設に伴い、紙の書籍3,369冊（和書3,308冊、洋書61冊）及び電子書籍697冊（和書685冊、洋書12冊）を新規導入した。また、開設2年目を迎えるデータサイエンス学部では、紙の書籍105冊（和書100冊、洋書5冊）及び電子書籍48冊（和書45冊、洋書3冊）を導入し、蔵書の充実に努めた。あわせて、山口県に関連した郷土資料の収集に努めた。さらに、引用文献データベース「Scopus」を新規導入し、電子リソースの拡充にも取り組むとともに、 現在契約中の電子リソースの利用方法について検討し、2025年度より学外からの利用を可能とした。 (※改行を解除)																		
94	2 収支状況（2019年度～2024年度決算）の表のうち「2024年度」の区分「費用の部」及び「経常経費」		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th></th> <th>2024年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用の部</td> <td></td> <td>2,303</td> </tr> <tr> <td>経常経費</td> <td></td> <td>2,299</td> </tr> </tbody> </table>	区分		2024年度	費用の部		2,303	経常経費		2,299	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th></th> <th>2024年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用の部</td> <td></td> <td>2,310</td> </tr> <tr> <td>経常経費</td> <td></td> <td>2,303</td> </tr> </tbody> </table>	区分		2024年度	費用の部		2,310	経常経費		2,303
区分		2024年度																				
費用の部		2,303																				
経常経費		2,299																				
区分		2024年度																				
費用の部		2,310																				
経常経費		2,303																				